

<全体分析>

試験時間 80 分

解答形式

記述式・客観式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問3題。解答数は42(記述式32、客観式10)で昨年度の41より若干増加した。難易度は例年通りで、変化はないが、一部に詳細な知識を必要とする問題も見られる。全体として教科書に準拠した標準レベルの問題が大半であり、80分の時間内で解答することは可能である。

出題の特徴や昨年との変更点

政治分野1題、国民生活分野(農業問題)1題、国際分野(南北問題)1題と幅広い分野からバランス良く出題されている。また、記述式が若干増加したが、設問に文字・字数指定があり、解答の際のヒントとなる。解答の際には、設問の指示に従って記入するように気を付けたい。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述式 客観式	日本国憲法と大日本帝国憲法	日本国憲法に規定のある基本的人権をテーマに、政教分離やそれに関する裁判、大日本帝国憲法の制定過程や統治機構についての大問である。〔1〕 B ～ D 、〔3〕では、自由権の名称や分類について問われている。本学では基本的人権に関する出題が多く注意が必要である。〔1〕 E 「靖国神社」、〔2〕「華族」、〔4〕「枢密院」の用語は、やや詳細な知識が問われているものの、その他は教科書に記載されている基本的な内容を問う設問である。	標準
II	記述式 客観式	日本の農業問題	第二次世界大戦前から現在に至るまでの日本の農業政策の変遷とそれに伴う課題についての大問である。〔1〕農地法の制定年 B 「1952」年や米の部分的輸入自由化の合意 H 「1993」年など、年号を問う問題が出題されている。〔1〕 D 「副業的農家」、〔3〕 ハ 「GMO」や ニ 「残留農薬」などやや詳細な知識が必要な問題も出題されたが、全体として、教科書に準じた基礎的知識を問う問題であった。	標準
III	記述式 客観式	南北問題	国際経済の課題と国際協力をテーマに、南北問題の解決のために、国連や先進国が行った政策や発展途上国への援助についての大問である。〔1〕 A 「国連開発の「10」年、〔5〕(b)「HDI」はやや詳細な知識が必要であるが、その他はどれも教科書に記載のある基本的知識を問う問題である。〔3〕交易条件の定義を選択させる問題は、用語の暗記のみならず定義など丁寧な学習が必要である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書に準拠した基本的な問題が中心であるが、一部に詳細な知識を必要とするものも出題されている。対策として、まず教科書を一通り熟読し、各分野の内容や流れを徹底的に理解する丁寧な学習が必要である。その際、用語の意味や法律の内容や制定年、国際機関などの加盟国や加盟年について、用語集や資料集を用いて学習を行うと一層効果的である。また、本学の空欄補充問題の特徴として、あまり一般的ではない用語が出題されることもあるので、教科書の太字の用語だけではなく、その他の文言にも注意を払って熟読しておきたい。記述式の問題が多く出題されていることから、学習の際には必ず用語を書いて学習する癖をつけておくことが肝心である。